平成２５年度研究成果報告書《平成 25 年度教育課程研究指定校事業》

都道府県・指定都市番号	２８	都道府県・指定都市名	兵庫県
学校名（生徒数）	国立大学法人　兵庫教育大学附属中学校　（321 人）		

（本研究に係る問い合わせ先）
所在地：兵庫県加東市山国 2007-109
電話番号：0795-40-2222
研究内容等を掲載しているウェブサイトの URL：http://www.hyogo-u.ac.jp/middle/

【研究成果のポイント】

○研究課題番号：３中学校
○研究対象教科等：技術・家庭科（家庭分野）
○研究のキーワード：幼児と触れ合う体験　遊び道具の製作　主体的な学び　相互評価
○研究成果のポイント：　幼児の発達と生活の学習を基に，ペアとなる対象児を設定して３回の触れ合い体験を工夫することにより，生徒は幼児への関心や理解を深め，子供が育つ環境としての家族と家庭の役割に気付くことができた。また，幼児と触れ合う体験毎に相互評価を取り入れた振り返りを繰り返すことにより，生徒はより高い課題を設定し，主体的に幼児と関わろうとする意欲を高めることができた。

【研究の目的，研究内容】

（１）研究主題

「Ａ家族・家庭との子供の成長」において「幼児と触れ合うなどの活動」を通して，幼児への関心を高め関わり方を工夫できるようにするための指導方法等の研究

（２）研究主題設定の理由

本校では，平成２３年度より主体的に学びを深める生徒の育成を主題とした研究を進めてきており，本年度家庭分野では，「自らの考えを創りあげる学びの追求」を副題として研究を行った。第３学年で履修する「Ａ（３）幼児の生活と家族」では，自分の成長を振り返り，家族への感謝の気持ちをもったり，自分の将来と結びつけ考えられる生徒もいるが，一方で幼児への関心が低い生徒がいる。このことから，幼児と触れ合うなどの活動を設定し，生徒の幼児に対する関心を高め，関わり方を工夫できるようにするための指導計画及び指導方法の工夫・改善を図る研究に取り組むこととした。

（３）研究体制

附属幼稚園との連携協議会や学校内での教職員研究会等での研究過程を説明し，意見交換を行う。

（４）１年間の主な取組の経過

平成25年度	○内容「Ａ家族・家庭と子供の成長」（３）幼児の生活と家族において，次のような調査研究を行った。 １ウ「幼児との触れ合い，関わり方の工夫」において，生徒１人と４・５歳児１～２人のペアを決定し，同じペアで３回の交流を行う指導計画を立て，その有効性を検証した。 ２ア「幼児の発達と生活の特徴，家族の役割」イ「幼児の観察や遊び道具の製作，幼児の遊びの意義」において学習したこと及び第１回訪問の幼児との触れ合いで観察したことが，エ「生活の課題と実践」（幼児に適した遊び道具の製作）にどのように生かされているのかを検証し，題材構成と指導方法等について検討した。 ３「幼児と触れ合うなどの活動」における「生活を工夫し創造する能力」の観点の評価方法は適切であったかの分析を行った。

（５）具体的な研究内容・方法，研究を進める上での工夫点等

○「A 家族・家庭と子供の成長」（３）幼児の生活と家族　における題材構成の工夫

A（３）幼児の生活と家族のまとめとして遊び道具の製作を「生活の課題と実践」（４時間）として位置付けた。

１学期の第１回目の幼稚園訪問で幼児を観察し，課題をもってペアとなる対象児のために遊び道具の製作計画を立てる。夏季休業中に家庭で製作し，２学期の第２回目の幼稚園訪問で，それらを用いて幼児と触れ合う。触れ合い体験を振り返り，幼児との関わり方でうまくいったこと，いかなかったことの要因を話し合い，更に課題をもって第３回目の幼児と触れ合う体験を行う題材構成とした。

○課題を設定する場面での指導の工夫

・遊び道具の製作計画書には，第１回目の幼稚園訪問での幼児の観察結果を生かして，対象児につけたい力を記入できるようにした。

・製作した遊び道具が，対象児につけたい力を引き出すものになっているかどうかを班で相互評価し，改善点をアドバイスし合って，より目標に近づくことができるように工夫した。

○幼児と触れ合う体験を振り返る場面での指導の工夫

・第１回目の幼稚園訪問の振り返りを生かした遊び道具が製作されているか，製作した遊び道具を班で相互評価し，良い点と改善点を色違いの付箋を用いて明確にした。

・第２回目の幼稚園訪問をＶＴＲで振り返り，対象児の様子について解説することで，学級全体で幼児の発達の特徴を共有した。

・第２回目の幼稚園訪問では，中学校を出発した時から触れ合い体験を終えるまでを，時間を追って自分の感情を書き記し（ナラティブ），それを基に幼児との関わり方について班で話し合ってワークシートにまとめ，更に学級全体で共有することで，第３回目の幼児と触れ合う体験へとつなげた。

○幼児に対する関心の変容を把握する評価方法の工夫

学習全般を通して行う教師による行動観察の他に，幼児と触れ合う体験に先立って生徒がまとめた自分の幼児期についての記述内容や幼稚園教諭による行動観察，触れ合い体験後の保護者のアンケート結果などを参考に，生徒の幼児に対する関心の変容を把握した。

【研究成果とその意義等】

（１）研究成果

○幼児の心身の発達の知識を基に，幼児の観察など，３回の幼児と触れ合う体験や遊び道具の製作を通して，生徒は幼児への理解を深め，子供が育つ環境としての家族と家庭の役割にも気付くことができた。

○対象児につけたい力を明記した計画書の作成や完成した遊び道具の相互評価は，課題設定や課題解決への意欲を高めるのに有効であることが分かった。

○「幼児と触れ合うなどの活動」における「生活を工夫し創造する能力」の観点の評価方法として，ナラティブと遊び道具の相互評価は，有効であることが分かった。

（２）研究成果の意義等

家庭や幼稚園と連携し，課題をもって遊び道具を製作（生活と課題の実践）し，幼児と触れ合う体験は，生徒の幼児への関心を深め，関わり方を工夫しようとする意欲を高めることに有効である。また，体験毎に相互評価を取り入れた振り返りを繰り返すことで，より高い課題が設定され，自己有用感を高めるとともに，幼児との関係や生徒同士の関係も深まった。

（３）指定期間終了後の取組

本研究成果は，附属中学校研究紀要や授業研究発表会をはじめ，附属学校間連携会議の家庭科部会や道徳部会，総合学習部会などにも公開していく予定である。